

〔I〕 次の問題文を読み、後の問に答えなさい。 1 13 の解答は解答欄にマークしなさい。

須磨海浜水族館や、いおワールドかごしま水族館を設計した吉田啓正は、「一九八〇年代の始めでも水族館の存在を批判し、水生動物を飼育展示すべきではないという意見は自然保護論者から出されていたが、市民一般に浸透しているとはいえなかった」と書いている。だが、水族の乱獲が問題視され、一九九二年のワシントン条約会議でマグロの捕獲禁止が議論されたりする過程で、魚介類もたんなる食べ物ではなく「X」であるという認識が、市民レベルでも根づいていった。そして「水族館でも水族の捕獲・展示が問題になり出し、外洋性のサメなどの大型魚類、サンゴなどの希少水族の扱いが難しくなり、やがては水族全般に広がる傾向にある」と説明する。

こうした状況下で求められたのは、動物園や水族館に新しい物語を付与すること、すなわち「再テーマ化」であった。かんたんにいえば、「われわれはいまや、動物と環境を救う拠点となった」と人びとに周知させるのだ。

水族館の「再テーマ化」について考えるうえで参考となるのは、保全生物学者マイケル・ハッチンスの「動物園と水族館における動物管理と保全——現在の傾向と未来へのチャレンジ」^アという論文だ。(中略)

ハッチンスがまず提言するのは、動物園と水族館(以下、セットにして呼ぶときは「園館」と書く)が協力して動物コレクションを維持すること、そして動物たちが暮らす環境の保全につとめることだ。

野生から動物を捕まえてきて展示するのは、環境破壊や乱獲が問題となっている現代において、もはや難しくなりつつある。国際間での野生動物の取引も、規制されていくだろう。だから、園館が共同で個体数を管理していくのはもちろん、動物管理の専門家を養成する。また大学^イ研究者と協力して動物の行動、繁殖、健康、栄養について研究し、そのデータをインターネット等で共有する必要があるという。

園館で、絶滅に瀕した生きものを繁殖させ個体数を維持することを「域外保全」という。生きものの生息域の「外」で保全にとりくむから、この名がついている。動物園は、早くからこの問題にとりくみできたおかげで、二〇〇一年の時点で、国際種情報システム機構に登録されている哺乳類のうち九〇パーセント、鳥類のうち七五パーセントの繁殖に成功している。

もつとも、できるだけ繁殖で動物をまかなうべしとの提言を、水族館にもそのままあてはめるのは難しい。飼育動物の性質が異なっているからだ。

まず海洋哺乳類についてだが、アメリカの水族館はすでに繁殖にとりくんでおり、イルカのばあい、二〇一五年の時点で飼育されているもののうち七割が繁殖で生まれたもので、三割が八〇年代に繁殖体制が整う前に野生から導入されたものだ。(中略)

さらに、水族館が飼育するのは海洋哺乳類だけではない。日本はもちろん、世界の水族館は、魚や無脊椎動物にかんしてはいかにあきかず収集や業者からの購入に頼ったままだ。

国産淡水魚の繁殖については、じつは日本の水族館は誇るべき実績をもっており、ミヤコタナゴやイタセンバラといった希少淡水魚を、収集に頼らず、遺伝子の多様性を保持しつつ繁殖させる努力をしてきた。

海水魚や汽水魚の繁殖はさらに難しい、と世界淡水魚園水族館の池谷幸樹はいう。これらの魚の卵や稚魚^イは非常に小さく、管理が難しいからである。だいたい水族館じたいが「Y」目的でつくられた施設ではなく、展示水槽はあくまでも魚の「Z」用にできていて、高密度なうえ隠れ家も少なく、光や水温も繁殖用に調整されていない。

しかし、「今後間接的に乱獲や環境破壊を助長するような行為は制限されるであろうし、輸出国も自国の生物・遺伝資源を簡単には国外に出さなくなることが予想される」。そこで池谷は、まずは「一水族館一種累代繁殖」といった目標を決め、そこで得られたノウハウを「域内保全」、すなわち生息域内での保全活動に応用できるようにしてはどうかと提言する。

域内保全は、今後「域外保全」よりも重要になってくるとハッチンスも強調する。園館は、個体数の管理、生態系の回復、避妊、遺伝子の分析、獣医学的なケアについてのノウハウをもっており、これを生息域内の野生動物に応用することが可能だ。さらに現地で保全スタッフを雇ってサポートすることができるはずだと述べているが、これは池谷のいうこととキョウメイしあう。(中略)

園館にとって、保全と並んで重要なのは人びとの教育だ。ただし、生きものの横に解説板を置いただけで「これぞ教育なり」というのは不完全で、人びとが保全の大切さを理解し、自らその運動に関わるようにできてこそその教育だ、とハッチンスはいう。その一例として挙げられているのが、学生の協力を得てブリティッシュ・コロンビアエンガン^エを再生する、カナダのバンクーバー水族館の取り組みである。(中略)

そして、決して軽んじてはならないのが、「動物の福祉」である。劣悪な環境で生きものを飼いつづければ、「動物の権利」どころか「動物の福祉」を追求する人びとすら敵にまわしてしまう。これからの展示が、生きものの心理的、物理的欲求にかなつたものであることは不可欠で、デザイナーと動物行動学者がいっしょに計画することも珍しくなくなるだろう。

肝心なのは、動物が自らの環境を「多少はコントロール」できること、つまり、各種の性質に応じたふるまいができるように、隠れたり、エサをとったり、運動したりできる余地を与えることだ。こうした飼育環境の充実は、「環境エンリッチメント」と呼ばれる。近い将来、それはあらゆる園館に欠かせなくなっていくだろう。

(溝井裕一『水族館の文化史』一部省略・表記改変)

注 1 「動物の福祉」は動物の虐待防止を目的として動物の利用そのものを否定しない立場であるのに対し、「動物の権利」は人間と動物の平等をうたい、動物利用に反対する立場を示す。

問一 ― 線部(ア～エ)と同じ漢字を用いるものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | |
|--|---|
| <p>1 ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ① チョウボウを楽しむ。 ② チョウヤク力を測る。 ③ 得意のゼツチョウ。 ④ チョウハツ的な態度。 | <p>2 イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① チキに再会する。 ② 祭りのチゴ行列。 ③ グチをこぼす。 ④ 無我のキョウチにいたる。 |
| <p>3 ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① タイザンメイドウ。 ② 運気がタイメイする。 ③ チョメイな作曲家。 ④ 人気があるメイガラ。 | <p>4 エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 雨天につきジエンエンする。 ② エンジエクした技法。 ③ 地下鉄のエンセンに住む。 ④ ジサクジエン。 |

問二 線部(A・C)の語句の意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 5 A ① 正しさが証明されて ② 我がこととして受容して
③ 新しい物事が定着して ④ 深く考察されて
- 6 B ① 調達する ② 節約する ③ 購入する ④ 保護する
- 7 C ① 作業効率 ② 物事のやり方 ③ 育成された人材 ④ 統計データ

問三 (X)に入る語を、次の中から一つ選びなさい。

- 8 X ① ともだち ② 環境 ③ 生きもの ④ 家畜

問四 線部I「動物園や水族館に新しい物語を付与すること」はなぜ求められたのか。理由の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 9 ① 園館の来館者数が減っていく中で、環境問題に意識的に取り組んでいる姿勢を示すことによって、新しい顧客を呼び込む必要があったから。
- ② 動物や水族の乱獲が問題視されていく中で、新しい展示用の個体が確保できなくなつたため、別の観点から魅力をアピールする必要があったから。
- ③ 自然破壊の観点から、大規模な園館の保持が疑問視されるようになったため、自分たちの正当性を改めて訴える必要があったから。
- ④ 自然破壊や乱獲への批判が高まる中で、それに加担しているわけではないということを示し、自分たちの新しい立場を強調する必要があったから。

問五 本文中での用法において、線部a・dのうち品詞が異なるものを、次の中から一つ選びなさい。

- 10 ① a ② b ③ c ④ d

問六 (Y・Z)に入る語の組み合わせを、次の中から一つ選びなさい。

- 11 ① 管理―教育 ② 保全―観察 ③ 収集―運動 ④ 監視―飼育

問七 問題文の内容に合致するものを、次の中から二つ選びなさい。

- 12 ① 域外保全と域内保全は、これからも同等に重要であるとハッチンスは述べている。
- 13 ② 現地で保全スタッフを雇用するため、水族館は個体の捕獲を継続する必要がある。
- ③ 「環境エンリッチメント」のために、園館の展示計画はデザイナーが中心となるべきだ。
- ④ ハッチンスは、教育により人々が自ら保全運動に関わるようになることが重要とした。
- ⑤ 一九八〇年代、水族館の存在を環境保護の観点から批判する声は一般的ではなかった。
- ⑥ 日本の水族館では、国産淡水魚を購入に頼らず、繁殖によって維持してきた。

〔II〕 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。14 26 の解答は解答欄にマークしなさい。

よく知られているように、^{注1}ドゥルーズは哲学を、X^{注2}する営みとして定義している。つまり彼が『シネマ』は映画史ではなく哲学書であると述べるのは、本書が新たに哲学的な概念を発明し、発明された諸概念によるシステムを構築するものであるということの意味すると考えてよいだろう。

『シネマ』は映画史の本ではなく哲学書であるという見方は、どうせん「それでは『シネマ』にとって映画とは何なのか」というべつの問題を呼び込む。これは哲学と芸術の関係という、より大きな問題として考えることもできるだろう。アンヌ・ソヴァニヤルグは『ドゥルーズと芸術』のなかでドゥルーズは「芸術の新たな用法」を発明した哲学者であると述べているが、『シネマ』を読むということは、そのような用法、つまりドゥルーズがいかに映画を使用し概念を発明したかということについて考えることでもある。

ドゥルーズは『シネマ』がどのようにして書かれたのかという問いについて、つぎのように答えている。

映画は私にとってプレテクスト「^アそれについて書くべく与えられる題材」でも、適用の領域でもありませんでした。哲学はほかの領域について外から反省するようなものではありません。哲学はほかの諸領域と、^ア活発で内的な同調関係を結ぶのであり、哲学はそれらよりチエウシヨウ的なわけでも、難しいわけでもありません。私は映画についての哲学をするつもりはありませんでした。記号の分類を通して映画を、映画自体のために考えるということがしたかったのです。それは流動的で、変更可能な分類であり、見通しをよくすることだけに価値がある。「……」私が望んだことは、イメージのように作動する文章に到達し、偉大な映画作品を「見えるようにする」ことでした。

¹ドゥルーズにとって映画は、哲学を「適用」する対象でも、哲学を使つて「反省」する対象でもなかった。仮にここに、『映画の哲学』という名前の本があつたなら、読者はそれを手に取るときに、その本が、映画作家が創作の信条を語つたものだろうとか、映画について哲学的な枠組みで説明したものであるだろうとか、あるいは哲学の小難しい内容を映画作品を使つてわかりやすく例示してくれているのだろうとか想像するかもしれない。しかし『シネマ』はこれらのどれにも当てはまらない。映画を通して哲学をすること、概念を発明することこそが問題なのだ。

適用あるいは反省の学として哲学を規定することへの批判は、ドゥルーズのほかの著作のなかにも見つけることができる。たとえば一九九一年に刊行された『哲学とは何か』の冒頭で、彼は「反省」の学、つまり何事かについてよくよく思考する学問として哲学を定義することを批判している。ひとは何かについて反省するために哲学など必要としないからだ。したがつて反省は哲学の¹コエウの領分になりえないし、反省によつて哲学の仕事¹を定義することは、哲学にあらゆる物事について思考するY¹を与えることになる。

ドゥルーズはこれを〈普遍〉へと向かう「錯覚」であると言っている。「〈普遍〉は何も説明することではなく、反対にそれ自身が説明されるべきものである」というのが哲学の第一原理である。つまり、ある種の「万能理論」あるいは「メタ³学問」として哲学を定義することは、〈普遍〉をすでに与えられて

いるものとする^アことによつて、あるいはどこかにそれがあると錯覚させることによつて、概念を説明するという哲学の創造性をカンカさせるだけでなく、^ア芸術をふくむほかの領域の創造性をも殺しかねないということだ。あるいは逆に、反省を哲学にとつて^Ⅱ基礎的なもの^Ⅱと考えることは、「普遍性」という皮をかぶつた哲学の無力を証言してしまふことになる^Ⅱとも言える。

ついでながらつけ加えておくと、「哲学とは何か」のおなじ箇所^Ⅱでドゥルーズは「反省」と同列に「観照」と「コミュニケーション」を哲学の基礎と考えることを批判している。この三つはそれぞれ、主観的、客観的、間主観的な〈普遍〉の錯覚であるとされる。個別の能力の領分と役割を^Ⅱ画定する^Ⅱという意味で、ほとんどカント的^Ⅱでさえある^Ⅱような^Ⅱこうした批判の態度は、いずれも、哲学にコユウの領分を定めること、そしてそれによつて哲学とほかの領域との^Ⅱ水平的な関係性^Ⅱを思考することを^Ⅱ目指している。

『シネマ』は「ドゥルーズ哲学」を映画に適用したものなどではない。適用、つまり概念を何らかの対象に「当てはめる」ことへの批判は、「反省」への批判と関連している。両者は、「^Ⅱについて」の思考として哲学を規定する点で共通しているからだ。ここでは英語では「^Ⅱ」に対応するフランス語の前置詞「^Ⅱ」が用いられているが、これはつまり映画「^Ⅱの上に」哲学があるのではないということだ。「映画の理論は、映画「^Ⅱについて」ではなく、映画がカンキする諸概念についての理論である」。映画を反省あるいは適用の対象とすること、つまり「映画についての哲学」をするということは、哲学の理論的な枠組みがあらかじめ完成しており、その枠組みを当てはめることによつて映画という実践を説明するということ^Ⅱを意味する。とうぜんこの場合、映画について何がしかの新しいことが言えたとしても、哲学の側に跳ね返ってくるものは何もない。哲学はあくまで^Ⅱ堅牢な^Ⅱ〈理論〉として、そして映画は理論が降ってくるのを待つ未規定な〈実践〉として想定されるからだ。

(檜尾匠『眼がスクリーンになるとき』表記改変)

- 注 1 一九二五―一九九五。フランスの哲学者。 2 ドゥルーズの著書。 3 高次の。超越的な。
4 一七二四―一八〇四。ドイツの哲学者。人間の認識能力を感性・悟性・理性という領域に分類した。

問一 ―線部(ア～エ)と同じ漢字を用いるものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | |
|------|--|------|---|
| 14 ア | ① ワヨウセツ ^ア チュウの建物。
② チュウカイ業者に依頼する。
③ チュウづりの状態。
④ 候補者のチュウセンを行う。 | 15 イ | ① ココウの態度を貫く。
② 自説に ^イ コシツする。
③ コテンを開催する。
④ エンコを頼る。 |
| 16 ウ | ① カンセン ^ウ チョウアク。
② カンカツが異なる。
③ 刑務所のカンシユ。
④ 国王のタイカン ^ウ シキ。 | 17 エ | ① キコウ文を書く。
② 機械をキドウする。
③ 教室のカンキを行う。
④ 実力をハツキする。 |

問二 ―線部(A～C)の語句の意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 18 | A ① 土台となる ② 共通する ③ 補助する ④ 落差がある |
| 19 | B ① 階層がある ② 安定した ③ 優劣がない ④ 没交渉な |
| 20 | C ① 応用力がある ② 揺るぎない ③ ありふれた ④ 攻撃的な |

問三 [] (X・Y)に入る語を、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 21 | X ① 芸術を総括 ② ジャンルを越境 ③ 理論を再生 ④ 概念を創造 |
| 22 | Y ① 猶予 ② 負債 ③ 特権 ④ 影響 |

問四 ―線部I「ドゥルーズによつて映画は、哲学を「適用」する対象でも、哲学を使つて「反省」する対象でもなかった」の理由として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 23 ① 哲学とは、単にほかの領域に当てはめるためのものではなく、むしろ映画を通して新たな概念を説明することこそが重要であるから。
② 映画作家が哲学的な枠組みを「適用」しながら行う自作の解説と、哲学者が行う小難しい映画分析とは、往々にして食い違ふものであるから。
③ 哲学的な概念を映画に対して一方的に当てはめることは、哲学と映画が有している〈普遍〉的な同題関係を切断してしまいかねないから。
④ 映画を「反省」あるいは「適用」の対象とすることは、哲学の〈普遍〉性を保証する理論的枠組みを揺るがしてしまう危険性を有しているから。

問五 ―線部II「画定」の「画」と異なる意味を持つものを、次の中から一つ選びなさい。

- 24 ① 画然 ② 画期 ③ 区画 ④ 画策

問六 問題文の内容に合致するものを、次の中から二つ選びなさい。

- 25 ① ドゥルーズは、あらかじめ完成された万能な理論的枠組みとして哲学をとらえることを、〈普遍〉へと向かう「錯覚」として批判している。
26 ② 『シネマ』はドゥルーズ哲学を応用して映画を分析した本ではなく、〈普遍〉的な哲学概念をアレンジしながら新たな思考の可能性を探ろうとした書物である。
③ 『シネマ』は「映画についての哲学」という試みを通して、従来とは異なる新たな「コミュニケーション」を哲学に持ち込もうとした書物である。
④ 『シネマ』は単なる映画史の本ではなく、映画を含む芸術ならびに哲学を包括的に扱うことによつて、哲学的な〈普遍〉概念を問いなおそうとする書物である。
⑤ 哲学の〈普遍〉性を自明のものとして、その万能性を認めることは、とりもなおさず哲学の無力を証明してしまふことになりかねない。
⑥ ドゥルーズによる「適用」への批判は、ほかの領域に対する哲学の普遍性を肯定する点において「反省」への批判と関連している。

次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。27 36 の解答は解答欄にマークしなさい。

つつしむべき年にて、過ぎにし二月の初午の日、龍蓋寺^{注1}へ詣ではべりて、やがてそれより初瀬^{注2}に、た
その程に参り着きたりしに、年の積もりにはいたく苦しう覺えて、師のもとにしはし休みはべりし
程に、うちまどろまれにけり。初夜の鐘の声におどろかれて、御前に参りて通夜しはべりしに、世の中
うちしづまる程に、修行者の三十四五などにやなるらむと見えしが、經をいと尊く読むあり。かたはら
近くゐたれば、「いかなる人のいつこより参りたまへるぞ。御經などの承らまほしからむには、尋ね奉
らむ。」と言ふに、この修行者言ふやう、「いつこと定めたるどころもはべらず。少しもの心づきて後、
この十余年、世のなりまかるさまの心とどむべくも見えはべらねば、人まねに、もし後世や助かるとて、
かやうにまどひありきはべるなり。」と言へば、^A「まことにかしこくおぼしとりたる事にこそ。誰もさす
がにこのことわりは思へども、まことしくは思ひ立たぬこそおろかにはべるめれ。この厄、今まで世に
はべる、希^{注3}有^{注4}の事なり。今日明日とも知らず、今年七十三になむりはべる。三十三を過ぎがたく相^{注5}人
なども申しあひたりしかば、岡寺は、厄を転じたまふと承りて、詣で初めしより、つつしみの年毎に、
二月の初午の日、参りつるしるしにこそ、今まで世にはべるは。今年つつしむべきにて参りつる、身な
がらもをかしく、今は何の命かは惜しかるべきと思ひながら、年ごろ参りならひてはべるにあはせて、
やがてこの御寺へも参らむと思ひ立ちてなむ。今この御寺には、ひとくに後世助かりはべらむ善知識^{注4}に
会はせさせたまへと申しに参れるに、かくいさぎよく後世おぼす人に会ひ奉りぬるは、しかるべきにこ
そ。世を背く人もおのづからもの言ひふれたまふ人なきはたよりなかるべき事なり。この厄もひとくに
子とも思ひ奉らむ。又、必ず善知識となりたまへ。」と言へば、修行者「いとうれしき事なり。今日よ
りはさこそ頼み申しはべらめ。」とて、又、經など読みてぞとし果てし程に、後夜うち過ぎて、我も人
も眠られしかば、「修行しありきたまひけむ物語したまへ。目をも覺ましはべらむ。大峯・葛城などには、
尊き事にも、又恐ろしき事にも会ひはべるなるは、いかなる事かはべりし。」と問へば、「年ごろは別に
さる事もなかりしに、一昨年の秋、葛城にてこそ、あさましき事に会ひはべりたり。常よりも
心澄みてあはれに覺えて、經を誦し奉りしに、(中略)九月上旬の十日頃の事にて、月の入り方になりは
べりし程に、ほのかにそのかたちを見れば、翁の姿したる者の、あさましげに瘦せ、神さびたるが、
藤の皮を編みて衣とし、竹の杖をつきたるが来たれるなりけり。(下略)」 (水鏡 一部省略)

- 注 1 奈良県明日香村にある岡寺の別称。 2 奈良県桜井市初瀬にある長谷寺。
3 人相を見て占いをする人。 4 仏道に導く縁となる高僧。
5 ともに修験道の修行道場。

問一 ―線部(A～ウ)の語句の意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 27 ア ① 社会の出来事 ② 周囲の様子
③ 身の上のありさま ④ 人間の心のうち
28 イ ① 欲望を捨てる ② 仏門に入る ③ 死を覚悟する ④ 道理に反する
29 ウ ① 気がかりな ② 恐れ多い ③ 驚くべき ④ 気の毒な

問二 ―線部(A～C)の口語訳として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 30 A ① 実際に仏道の真理を悟られた
② 確かに堅実な発想をお持ちだ
③ 現実に即した解釈を下された
④ 本当に立派な決心をなさった
31 B ① 仏道修行の方法を理解できない
② 極楽往生の有難さが分からない
③ 現世の無常に実感がわかない
④ 実際に出家するには至らない
32 C ① 私もあなたを母親のように頼みに思い申し上げます
② 私もあなたに頼まれて仏道に縁を結び申し上げます
③ 私も多くの人から慕われ頼りにされたいと存する
④ 私も仏道修行を頼むべきより所にしようと存する

問三 ―線部I「經など読みて」の動作の主体は誰か、次の中から一つ選びなさい。

- 33 ① 善知識 ② 尼 ③ 修行者 ④ 長谷寺の師

問四 に入る助動詞の活用形として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 34 ① しか ② き ③ し ④ ける

問五 問題文の内容と合致するものを、次の中から一つ選びなさい。

- 35 ① 尼は厄年毎に岡寺へ参詣を続けたため、七十三歳まで生き延びられたと考えていた。
② 修行者は家族と離別して回国していたが、尼と出会って高僧を目指す決意を抱いた。
③ 葛城山には古来神の化身である翁が住み、入山者の前に現れるという伝承があった。
④ 龍蓋寺はこの寺に参詣して通夜すれば、極楽往生が可能になるとして信仰を集めた。

問六 「水鏡」は鎌倉時代初期の成立と言われるが、これより後に成立した作品を、次の中から一つ選
びなさい。

- 36 ① 落窪物語 ② 大鏡 ③ 栄花物語 ④ 増鏡